学校番号	1011

令和８年度　(専)音楽科

教科	(専)音楽	科目	(学)演奏演習 A	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	個々のレベルに応じた教材を使用						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

■進路にピアノが必要な生徒（保育や教育方面など）を主に対象としていますが、その他の生徒も選択できます。
■ピアノを演奏するための楽譜の読み方、指使い、音楽用語などを学習し、課題曲や自由曲を演奏します。
■学習の到達度は年間５回の実技テストや日頃の授業での進捗状況、授業振り返りなどの提出物で評価します。
■ピアノの演奏はこつこつと練習を積み重ね、少しずつ上達します。
　学習の際は、じっくりと時間をかけて課題に取り組んでください。

2　学習の到達目標

・様々なピアノの演奏を通して、生涯にわたり音楽を愛好することができる。
・意図に基づいて表現することができる。
・音楽を通して心豊かな生活や社会を創造しようとしている。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	楽器の音色や奏法の特徴や様々な表現形態による演奏の特徴などに興味をもち、創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、ピアノ学習で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士を知覚し、 それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	主体的・協働的にピアノ演奏表現 （奏法、姿勢や指の使い方、読譜の仕方など）の学習活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	基礎を身に付けよう	バイエルなどの教則本からの課題曲数曲	a：楽器の音色や奏法の特徴や様々な表現形態による演奏の特徴などに興味をもち、創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、ピアノ学習で表している。 b：音楽を形づくっている要素や要素同士を知覚し、 それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。 c：主体的･協働的にピアノ演奏表現 （奏法、姿勢や指の使い方、読譜の仕方など）の学習活動に取り組もうとしている。	観察 ワークシート 実技テスト	観察 ワークシート 実技テスト	観察 ワークシート 実技テスト
2	曲を選んで演奏してみよう	初心者用楽譜等から課題曲 簡単な連弾曲	a：楽器の音色や奏法の特徴や様々な表現形態による演奏 の特徴などに興味をもち、創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、アンサンブル（連弾）について興味関心をもち、ピアノ学習で表している。 b：音楽を形づくっている要素や要素同士を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて、どのように表すかアンサンブル（連弾）を通して考え、表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。 c：主体的･協働的にピアノ演奏表現 （奏法、姿勢や指の使い方、読譜の仕方など）の学習活動に取り組もうとしている。	観察 ワークシート 実技テスト	観察 ワークシート 実技テスト	観察 ワークシート 実技テスト

3	1年間の仕上げをしよう	自由曲	a: 楽器の音色や奏法の特徴や様々な表現形態による演奏 の特徴などに興味をもち、創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、ピアノ学習で表している。 b: 音楽を形づくっている要素や要素同士を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。 c: 主体的･協働的にピアノ演奏表現 （奏法、姿勢や指の使い方、読譜の仕方など）の学習活動に取り組もうとしている。	観察 ワークシート 実 技 テスト	観察 ワ ー ク シート 実 技 テスト	観察 ワークシート 実 技 テスト

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度